

# 北の逸品

会員企業が

こだわりを持って開発した製品を

認証する「北のブランド」。

その「逸品」の誕生について

をご紹介します。



「絹子」(写真上)はウレタンスポンジを中に包み、泡立ちを良くしている。  
「絹子のせなか」(写真下)は、利用者からの要望を受けて届きにくい背  
中用に作ったもの。裏を木綿生地にして絹独特の縮みを防ぐ工夫が。



色柄にはどちらも豊富なバリエーションがある。

着物の色柄を楽しみながら  
絹繊維の力で肌を磨く

絹子シリーズ

ものづくり

北海道は広く、各地に素晴らしい技術や卓越したアイデアでものづくりをする製造者がいる。そして、ターゲットが魅力を感じる形で商品を展開し、価値を高めることでものづくりに貢献する会社もある。(株)Kカンパニー取締役の中嶋佳世子さんは、趣味の旅行で道内各地を巡る際、たくさんの名品が地方に眠っていることを知った。そして「良い物だから、皆さんにも知ってもらいたい」その一心で同社を立ち上げた。

同社が食品から徐々に雑貨の販売へシフトしていく中で、中嶋さんが心を奪われた物が絹製のあかすりだ。元々、和服の需要が減る中で呉服店が生き残りをかけ、在庫の生地や端切れを着物以外に活用しようと考えて生まれた商品だった。絹は表面が三角形になった細かい繊維であり、動物性の繊維なので人の肌と同じアミノ酸でできている。あかすりに使うと、肌の古い角質を無理なくからめとるのだ。中嶋さんも実際に使ってみて、「だんだんと肌が改善されていくのが良いと思って」とメーカーにOEM契約を申し込んだ。

中嶋さんが力を注いだのは、商品の魅力をしっかり伝える売り方。メインターゲットである女性に訴えるには、パッケージとネーミングが重要だと考えた。家族や身近な人の意見を聞きながら、親しみを感ずる「絹子」と命名し、帯締めを模したパッケージデザインにした。戦略は当たり、道内だけでなく首都圏のギフト展覧会での引き合いや、海外旅行客向けに成田空港でも販売を予定するなど道外からも注目を集めている。「北海道の良い物を、全国の方にも知っていただく機会になれば」。喜ぶ中嶋さんの姿勢は創業当時から変わらない。

※OEM契約とは、買主が自社の仕様に基づいて、自社のブランドを付した製品の製造および供給について、売主である製造業者との間に締結する契約の総称

## 絹子シリーズ

【希望小売価格】

絹子/1,050円

(縦12cm×横9cm×厚さ1.5cm)

絹子のせなか/2,310円

(幅14cm×長さ95cm)

【購入可能店舗】

丸井今井札幌本店 一条館6F

バス用品コーナー

(札幌市中央区南1条西2丁目)

TEL: 011-205-1151)

(株)Kカンパニー

札幌市豊平区西岡4条13丁目18-6

TEL:011-876-9785



<http://www.sapporo-cci.or.jp/north-brand/> (北のブランド公式ホームページ)

●お問い合わせ/札幌商工会議所 部会・産業部 産業2課 TEL:011-231-1374